

令和5年度（2023年）度 追手門学院小学校 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

『建学の礎として、人格形成を第一義としつつ、最先端の教育環境による「革新」をも備えたゆるぎない伝統校』

2 中期的目標

1. 次代が求める高水準の教育の展開
 - (1) 高い英語力を育成する学校
 - (2) ICT教育の実践強化
 - (3) 確かな学力を身に付けさせることができる学校
2. グローバル教育の推進
 - (1) 国際教育センターによるグローバル教育の推進
 - (2) 日本人としてのアイデンティティを持ち、正しい礼儀作法を身に付けさせる。
3. 「志の教育」の具現化
 - (1) 志を持ち、目標に向かうチャレンジ精神や忍耐力の育成
 - (2) 多様性を受容し、自分以外のものを大切にする心の育成

【保護者アンケートの結果と分析・学校関係者評価委員会からの意見】

保護者アンケートの結果と分析（令和5年11月実施）	学校関係者評価委員会からの意見
<p>*そう思う：3、どちらかといえばそう思う：1、どちらかといえばそう思わない：-1、そう思わない：-3、わからない：0の加重平均</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学を勧める比率は肯定派が93.3%となり昨年度より肯定派が0.3%増加した。 ・2023年度は、過年度と比較して、全体的に満足度が高い。16項目において19年度から23年度の5年間で最も高い評価を得ている。満足度スコア2.00ポイントを下回ったのは3項目のみである。 ・「国際教育」「クラブ活動充実」「中学進学指導」の評価が上がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT教育と共に、紙や鉛筆を使った基礎的な指導も大切にしている点が素晴らしい。 ・校外学習によって教室では味わえない学習や経験ができています。 ・行事を通じてコミュニケーション能力が向上する。コロナ後、すべての行事が復活したことが喜ばしい。 ・保護者が子供に率先垂範する姿を見せてほしい。 ・PTA活動を通じて先生方が頑張っておられる姿がわかった。

3 本校の取り組み内容および自己評価

中間的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 次代が求める高水準の教育	①高い英語力の育成 ②児童の英語力の把握とカリキュラム作成 ③姉妹校とのコラボ授業 ④ICTの活用と主体的・対話的で深い学び ⑤個別最適化学習とAIアプリ ⑥STEAM教育とプログラミング教育	①3年生以上での能力別授業の実施 ②3～5年生 TOEFL Primary 年2回実施と活用 ③姉妹校と遠隔授業の実施 ④追小ならではの主体的・対話的で深い学びを実現するため、ICTを活用したPBLの研究会に参加し、研究を深める。 ⑤個別最適化学習に一環として、AI教材の検討を行う。 ⑥STEAM教育の実施とプログラミング学習の研修と公開授業の実施。外部機関との共同研究。	①能力別授業の実施 ②TOEFL Primary スコア分析年2回 ③姉妹校と遠隔授業の継続的・発展的交渉月1回 ☆英語力を伸ばす指導について、保護者満足度85%以上 ④ICTを活用したPBLの研究会に参加年3回。 ⑤AI教材の検討会議年5回 ⑥STEAM教育の一環としてプログラミング学習の教員研修実施年3回 ☆ICTを活用した授業について、保護者満足度85%以上	①児童の英語力に合わせた課題の克服など、効率的で効果的な授業の実施を継続していく。 ②TOEFL Primary のスコアを分析し、能力別クラスや次年度のカリキュラム作成に繋ぎ、活発化させていく。 ③海外姉妹校との遠隔授業では、本校から日本語の授業の実施することができ、相互のやり取りが活発化している。 ☆英語力を伸ばす指導は、保護者アンケートで91.6%の保護者が「満足している」と回答。 ④CS教育部員を中心にICTを活用したPBLの研究会に年3回以上参加し、報告会を開いた。授業支援アプリ Qubena を運用を始め、継続の予定である。 ⑤AI教材の検討会議を5回以上実施し、英語モジュールでAIアプリ Monoxer の活用を開始した。より良い活用法を検討していく。 ⑥プログラミング学習の研修会を年3回以上、公開授業を各学年で実施した。steAm BAND「未来の地球学校」に協賛。同法人が主催する「学びの協奏コンテスト」にロボットプログラミングクラブが参加した。今後も活発に活動予定である。 ☆ICTを活用した授業は、保護者アンケートで96.0%の保護者が「満足している」と回答している。
2. グローバル教育の推進	①国際交流行事の充実 ②国際教育センターによるグローバル教育の推進 ③国内 STEAM 研修旅行の実施 ④公開セミナー ⑤日本人としてのアイデンティティの育成 ⑥正しい礼儀作法	①海外姉妹校の相互訪問とオンライン授業の実施(授業) ②SUNプロジェクトの計画立案 サンフランシスコ地区の科学博物館見学・スタンフォード大学STEMキャンプ・IPS細胞研究所見学等 ③最先端企業や国際機関の視察 ④国際教育に関する公開セミナーの検討 ①NIPPON 再発見プロジェクト実施による日本の良さの見直し ③正しい礼儀作法を身に付ける。	①オーストラリアとハワイの相互訪問実現とオーストラリアとのオンライン上の授業の実施。 ②令和6年度開催の計画立案と、現地視察。 ③最先端企業や国際機関の視察の実施。児童の研修の計画会議月1回。 ④国際教育に関する公開セミナーの計画会議月1回 ⑤年3回のNIPPON再発見プロジェクトの実施 ⑥1～4年生が学期に1回礼法の授業を受講する。 ☆国際教育に関する保護者満足度85%以上。	①コロナ禍があけ、7年ぶりに姉妹校2校との相互訪問が実現した。オーストラリアとのオンライン授業交流は、40回以上に及んだ。児童のコミュニケーションの向上がみられるとともに、姉妹校の教諭と連携を深めることができ、再び活動を継続していく予定。 ②8月にアメリカで視察を行い、12月に希望者を募り、参加者を決定し、3月に渡航説明を行った。新年度に向け計画中である。 ③国内STEAM教育研修旅行を2泊3日で行った。国内における最先端技術や芸術に触れたり、SDGsを切り口とした探究的な学習を行ったりする中で、児童が将来国際的に活躍できる資質・能力の育成を図った。 ④追手門大学とタイアップして一般教諭対象の英語指導者講座を年3回実施した。参加者は他校も含め約200名と盛況であった。 ⑤6月24日(土)第1回京都方面(大徳寺大仙院座禅体験・北山水墨画体験・詩仙堂庭園鑑賞) 10月28日(土)第2回奈良方面(里山での秋の収穫・おくどさん体験・紙漉き体験) 2月10日(土)第3回奈良方面(冬の田舎体験・おくどさん体験・紙漉き体験) ⑥1～4年生が学期に1回礼法の授業を受講。礼の仕方や箸の持ち方など、正しい礼儀作法を学んだ。 ☆国際教育に関する保護者アンケートは、96.8%の保護者が「満足している」と回答。

<p style="text-align: center;">3. 「志教育」の具現化</p>	<p>①キャリア教育の推進</p> <p>②人材の発掘</p> <p>③児童の意識調査</p> <p>④礼儀礼節</p>	<p>①児童が強い憧れを抱くキャリアを有する人材の選定と来校の打診を行う。</p> <p>②大学1・2回生となる追小卒業生への進学先調査を実施する。</p> <p>③児童の夢や生活を調べ、児童の意識を知る。</p> <p>④礼儀礼節や規範を育てる指導は、小学校教育の根幹であるので、徹底させる。</p>	<p>① 卒業生による講演会の実施</p> <p>② 1月の成人の日同窓会で実施し、リストを作成する。</p> <p>③生活実態調査と児童の夢調査を年1回実施する。</p> <p>④礼儀礼節の指導を週1回実施する。</p> <p>☆志の教育に関する保護者満足度85%以上。</p>	<p>①卒業生リストは作成中。卒業生2名による講演会を実施した。卒業生が歩んだ道が、今後の児童の道標となるであろう。</p> <p>② 127期成人の日同窓会が開催されたので、アンケート調査を実施した。今後も定期的に調査を継続していく。</p> <p>③ 子どもたちが将来に希望を持って進んで行けるよう、生活実態調査と夢調査を1回ずつ実施し、日々の指導に活用した。次年度の講演講師の選定にも役立てていく。</p> <p>④礼儀礼節や規範意識を朝礼での訓話や週の目標に落とし込み、指導を繰り返した。コロナ禍で中断していた外での朝礼が復活し、本校らしい規律正しい態度が見られるようになった。</p> <p>☆志の教育に関する保護者アンケートは、93.4%の保護者が「満足している」と回答。</p>
---	--	---	--	--